

# 構造

## 〔1〕セーフティSKパネルの構造

従来の吊り足場の構造は、①吊りチェーン②親パイプ③親パイプ連結用自在クランプ④コロバシパイプ⑤コロバシ連結用直交クランプ⑥足場板⑦足場番線⑧安全ネット⑨安全ネット用ロープ等によって構成されていますが、セーフティSKパネルではこの②～⑨を一枚のパネルに収め一体化しています。従って、セーフティSKパネル式吊り足場では①吊りチェーン②セーフティSKパネルの2点で構成されます。

セーフティSKパネルは大人が手を伸ばして届く長さ、運搬コスト等を考慮して、進行方向（親パイプ方向）の長さは66cmとなっています。また、横断方向（コロバシ方向）の長さは、2m、3m、3.85mの3種類があります。親パイプに相当する部分は、単管（φ48.6mm）を使用しているため、市販のクランプの取り付けが可能。単管との併用による細工や、朝顔の取り付け等が簡単に行なえます。

作業床は厚さ12mmの耐水型コンパネかアルミ縞板、あるいはエキスパンドメタルが全面に張付けられていますので、落下防止ネットは不要です。

また、セーフティSKパネルの連結部は、オリジナル連結ジョイントを組み込んでいるため、連結作業も簡単に行なえます。

## 〔2〕セーフティSKパネル各部の名称図

